

令和2年度 鶴岡市子ども読書活動推進委員会 会議録

○日 時 令和2年10月2日(金) 午後15時30分～

○会 場 鶴岡市立図書館 講座室

○次 第 委嘱状交付

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 委員自己紹介(庁内会議委員等 自己紹介)
4. 推進委員会会長、副会長の選任について
5. 報告・協議
 - (1) 第2次推進計画について
 - (2) 子ども読書活動を推進する取り組みについて
 - (3) 子ども読書活動推進計画啓発資料パンフレットについて(資料1)
 - (4) その他
6. その他
7. 閉会

○出席委員

本間俊美委員、三浦洋介委員、高取千昭委員、中村ちか子委員、遠田達浩委員
大滝久美委員、佐藤綾子委員

○欠席委員

井上裕子委員、五十嵐良二委員

○市側出席職員

教育長、教育部長 石塚健、子育て推進課長 渡会 健一、健康課長 伊原千佳子
学校教育課長 成澤和則、社会教育課長(代理) 社会教育主査 伊藤典子、
図書館長 松浦幸子、
健康課保健師 斎藤絵梨子、子育て推進課主事 白幡佳純、かたばみ保育園保育主任 佐藤香
図書館主査 船岡里佳、図書館主事 菖蒲みさ

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 1人

○会議内容

・委嘱状交付

教育長より委員へ委嘱状交付

- 1 開 会 (部長)
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員、及び庁内会議委員 自己紹介
- 4 推進委員会会長、副会長の選任について
立候補、また推薦者なく事務局より提案
会長に三浦洋介委員、副会長に中村ちか子委員
承認の上、以上の2名に決定。
- 5 報告・協議
 - (1) 第2次推進計画について
 - (2) 子ども読書活動を推進する取り組みについて(子ども達の近況報告も含む)
 - (3) 子ども読書活動推進計画啓発資料パンフレットについて(資料1)

【質疑・意見】

(副会長) (学校) 図書館を使用するのにソファや席を間引き、消毒もしながら、現在は通常開館している。子どもたちは本を楽しみにしている。

体育館、図書館も使用割り当てをし、場の提供、時間の提供、コロナ対策をしている。セルフケア学習もしており、「思いやり」をキーワードに指導している。子ども達も心掛けているため支障なく図書館も使用している。

読書祭りも計画しており、昨年、親子読書に取り組んで大変良かったため、今年も取り組む。親から子どもに本を紹介してもらい、11月の授業参観時に掲示して共有する、とても良い機会となっている。

この計画を学校の現場でも何が出来るのか、考え計画している。(学校) 図書主任会は継続していきたい。主任会にてこの計画を知っていただき、各学校でどうするか考えていただきたい。図書司書の研修もあるので、まずは計画を知っていただくことが大切だと思う。

(委員) この計画を今回初めて知った。PTAの研修の場にも情報提供を行い、知っていただく事が出来るのではないかと。県のPTA連合会でも「親子で読み合いたい一冊」という企画がある。ただ、学校、市町村によって取り組み方が違う様である。もっと保護者にPRするといいいのでは。

(委員) 保育園では、年度当初はコロナの影響により一時中止していたが、今、消毒等しながら保護者へ本の貸出を再開している。玄関に季節のおすすめの絵本等をおき、送迎の際に手に取って見ることが出来る様にしている。

気になることが一つ、保護者に向けて絵本の大切さや、心の栄養になることなど啓蒙しているが、まだまだメディアに頼る保護者の姿が見られる。なお一層、メディアだけでなく絵本の大切さを伝えていかなければと感じている。これからも園での読み聞かせ等を通して心地良さ、楽しさをさらに伝えていきたい。そこから家庭へとつながっていくように日々取り組んでいる。

(委員) コロナの影響もあり病院の待合室など、今まで本があった環境に本がない。そんな中、(病院の) 待ち時間に親がスマホ等を子どもに見せている光景を目にする。少しの時間も待つことが出来ない、すぐメディアに頼る、本がなければ持参すれば良いのでは等と様々思うところがある。もっと市民に知らせていくと違ってくるのではないか。

(委員) 休校開けて図書館も再開し、図書委員ではなく職員による貸出が行われている。調べ学習や課題研究等でも活用しているが、今まで通りの利用となっている。ここ2、3ヶ月感染者が発生していない状況ではあるが、いつまでこの状況が続くのか見えないところではあるが、(生徒たちも) マナーとして意識をもっている。保護者の参観は出来ない等制限はあるものの、大きな学校行事もやっと開催するところである。

メディアは、簡単に調べることができるけれども記憶に残るとい点では、紙(媒体)の方が有効なのではないかと思う。

このコロナの影響によって外部(会議等)へ出る機会が減った分、校内の生徒の様子や図書館の様子に触れる機会がより増えた。本による良い影響を再認識した半年であった。

高校は全てに司書を配置している。企画展示など様々工夫してくれている。鶴岡市が頑張っている様子を、様々な場面で聞いているので是非PRしていただき、より良いものにして頂きたい。

(会長) それぞれの現場からの報告あったが、調べ学習、課題学習、探究、自分の頭で考えるときに、読書の役割は大きい。そして、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校とつながる大切なことだと感じている。

(委員) 当初から関わっており、この計画ができた今、万感な思いである。ほかで早々と策定している中、鶴岡市はいつになるのかと焦りを感じながら取り組み、それぞれの立場から意見が出され、良い会議であると感じつつ、その集大成がこの第2次計画ではないかと思う。

皆川市長の言葉が載せられたこと自体、特別なことではないかと。「市民みんなで～」という言葉が、市民の代表である市長の言葉であることに大変深い意味があると思う。

4章の「計画推進のために」とあるが、これからここが最も大切になってくる。各関係機関がどれだけ連携していくのか、共有していく場をどのようにして作っていくのが良いのか課題としてみえる。

広報啓発、ここが最も弱い部分であった。この1枚化したもの(パンフレット)を作成して取り組んでいくという事に大変期待している。

(パンフレットに)成長に合わせた読書のすすめ、「このようにすると良い」というヒントが、必要である。生まれる前から3、4、5歳児のところまでは、(取り組みの)ヒントがあるが、小中高にはヒントが欠けている。どんなことをしていけば良いのか、この第2次計画に書かれていることを少し足してやると良いのでは。

「大人になっても～」の部分にも、「読書」は自分の楽しみではあるが、市民一人一人が、子どものため何が出来るのか、ボランティアや読み聞かせの勉強をして小さい子どもと触れ合う、あるいは自分の子どもや孫、ひ孫に読んでやる、本を買ってやるなど、様々できることがある。

市民一人一人が子どもに、どのように関わっていけば良いのか、少し書き加えたら良いのではないかと。

「Q&A」のところで、「何を読めば良いのか」、これは大変難しい質問であり、年齢によって違いがあるが上手くまとめたと思う。

本と触れ合える場は色々ある。ここには公共機関が中心に書かれているが、街の中には飲食店、病院、旅館、花屋、様々な所に本がたくさんある。「まちじゅう図書館」ということで、いつでもどこでも（本と）触れ合えるようになっている。

本というのは、どこにでもあるということを知らせていくことが必要だと思う。（そのことを）少し付け加えると良いのではないかと。これからこのパンフレットが活躍していくと思う。

あと質問として、庁内会議とは何か新たなものなのか。

（事務局） 今までもある、この庁内委員の会議のことです。

（副会長） 要望として、予算が掛かることであり、すぐに出来ることではないが、たくさんの方に知っていただくという手段として、市広報にて全世帯に、あるいは小中高の保護者に配布してはどうか。せっかく素敵なものができあがる、広く知っていただきたい。

もう一つは、「QR コード」はどこにつながるのか。（アクセス先が）全体もいいが、読みたい箇所につながる方が良いのでは。

例えば「赤ちゃんと読みたいリスト」に、また「おすすめの本」につながると良いのでは。そして、（視覚として）絵本の表紙（画）が見える事であたたかさが伝わる。見たい、読みたい、買ってみたいと思うのではないかと。

今の時代の情報の取り方に合わせて、「QR コード」を上手に活用していただきたい。

（会 長） 次回の推進委員会では、教育委員会、PTA、公立保育園等と、それぞれの立場で些細な事でも構わずに、取り組んできた事、推進してきた事を、それぞれが意見をもち寄ってこの会議で共有し、意見交換をして、計画を推進する会議にしたい。

5年計画のうち、例えばアンケートは4年目で取り、最後の年はそれに沿ってしっかり練っていく、計画で終わらない、それぞれの立場で何が出来るのか、次回話し合い、知恵を出し合い、読書推進に結びつけていくことが必要である。

7 その他

8 閉 会